

露天採掘技術テキスト正誤表（2019年5月～2021年4月分）

赤字は修正箇所

●印は2021年4月修正（無印は2019年5月、2020年4月修正）

頁	行	修正前	修正後
3	10	内径20cm ²	内径20cm
6	27	その防災対策を 請 じる	その防災対策を 講 じる
8	図1.2	円グラフと棒グラフを線で囲う	
8	18	火災の出火原因を表1.40に示す。	火災の出火原因を 図1.2の円グラフ に示す。
9	2	出火原因別の出火件数を、図1.2に示す。	出火原因別の出火件数を、 図1.2の棒グラフ に示す。
9	2	コンロ	こんろ (図1.2の表記に揃える)
9	3	たき火、 火あそび 、火入れ、ストーブ、電灯電話等の配線などの	たき火、火入れ、ストーブ、電灯電話等の配線、 火あそび などの
9	7	成型品、動植物油、袋・紙製品、	成型品、動植物 油類 、袋・紙製品、
12	10	空気量に 比較 する範囲の火災を、換気支配 形 という。	空気量に 比例 する範囲の火災を、換気支配 型 という。
12	14	燃焼支配 形 という。	燃焼支配 型 という。
22	30	水噴霧やス ブ リンクラは、	水噴霧やス プ リンクラは、
23	21	⊕密閉	密閉
25	27	濡れた場合など を も考え、	濡れた場合なども考え、
33	6、12	2)、3)	(2)、(3) (太字にする)
33	9	係員 という ことになる。	係員 ということ になる。
● 41	表1.15	⑥ひどいショック症状	⑤ひどいショック症状
45	15	(1)意識不明者の3容態 意識	(1)意識不明者の3容態
58	25、33	岩 ばん 、天 ばん	岩 盤 、天 盤
66	5	落 ばん	落 盤
67	3、15	岩 ばん 、天 ばん	岩 盤 、天 盤
68	30	原則として 37°C以下としなければならない。	摂氏 37°C以下としなければならない。
72	23	通気抵抗を 減 ずる	通気抵抗を 減 ずる
73	21、 23、30	岩 ばん	岩 盤
80	2	傾斜面採掘 方法 の欠点は	傾斜面採掘法の欠点は
81	32	次の 3種の形状がある（図2.6 参照 ）	図2.6に 示す 3種の形状がある。
91	16	ロータリ ー ドリル	ロータリドリル
98	1	ホイール式トラクターショベル	<u>ホイール式トラクターショベル</u> (下線必要)

頁	行	修正前	修正後
116	23	安全性は低下する。(この後、追記) 経済性を重んじるあまり、斜面崩壊を起こせば元も子もなくなる。 従って、・・・	
116	24	斜面傾斜をできるだけ急にする。	斜面傾斜をできるだけ急にすることが一般に望まれる。
116	25	60° 以上になることもある。	60° 以上になることも珍しくない。
116	26~30	斜面をあまり急にすると、・・・これにも限界がある。 (5行削除)	
135	3	発破効力決めた係数である。	発破効力を決めた係数である。
141	5、7	起採	起砕
147	17	その他所定事項を記入して火薬係員に請求し、火薬取扱所で受領する。	その他所定事項を記入して火薬類作業監督者 ^{注)} に請求し、火薬類取扱所または火薬類受渡場所 ^{注)} で受領する。 注) 規則第四十三条第一項の表の第一号に定められる火薬類の存置、受渡し、運搬及び発破に関する作業に係る作業監督者を「火薬類作業監督者」という。
147	22	無資格者が火薬類を請求・受領してはなら(“な”が抜けている)い。	火薬類を使用する作業に従事させるときに施される教育を受けた者(以下、「発破作業担当者」という。)以外が、火薬類を請求・受領してはならない。
148	8	雷管そう着棒	雷管装着棒
148	11	発破器のハンドル(キー)は、発破係員または有資格者が点火する者が常時携行	発破器のハンドル(キー)は、当該発破作業担当者が常時携行
148	19	①担当係員は就業前に、	①火薬類作業監督者は作業前に、
148	21	②発破箇所に通じる主要な道路には、発破施行者が立会の上、所定箇所に見張人を配置し、発破時間、警戒位置、発破終了の連絡方法などの打ち合わせを行う。見張人は、あらかじめ決められた発破施行者からの発破終了の連絡があるまでは、みだりに警戒位置を離れてはならない。	②発破作業担当者は、あらかじめ見張人を指定し、発破時間、警戒位置、発破終了の連絡方法などの打ち合わせを行う。発破箇所に通じる主要道路などへ見張人を配置し、見張人はあらかじめ決められた発破終了の連絡があるまでは、みだりに警戒位置を離れてはならない。
148	26,29	発破施行者は、	発破作業担当者は、
149	14	雷管装着爆薬(親ダイナマイト)	雷管装着爆薬(親ダイ)
149	18	①爆薬の包装紙を開き、薬包端に木製の雷管装着棒で雷管装入孔を開ける。雷管を装入後、再び包装紙で包み、ひもまたはゴム輪で口元を結ぶ。(図2.58参照)	①爆薬への雷管装入は図2.58の様に行う。

頁	行	修正前	修正後
149	30	⑥ANFO装填は静電気を帯びぬよう慎重に行う。 装填後、除電してから親ダイを装入する。	⑥ANFO装填は静電気を帯びぬよう慎重に行う。
150	1	込物は、一般に粘土、ポリエチレン袋に入れた砂・岩粉・尾鉱粉、水などを使用する。	込物は、一般に粘土、砂などを使用し、横孔装薬時はポリエチレン袋に入れて装入する。
152	10	補助線と脚線との結線は、図2.63と同じく	補助線と脚線との結線は、図2.62と同じく
154	17	電気突破	電気発破
155	9	異状がなければ前記1)③によって、孔中の短絡を調べる。	(削除する)
155	31	発破施行者(作業監督者、発破係有資格者)は、	火薬類作業監督者、発破作業担当者は、
156	1	速やかに火薬類取扱所に返還する。	速やかに火薬類取扱所または火薬類受渡場所を介して火薬庫へ返還する。
156	3,23,24	発破施行者	発破作業担当者
156	21	不発火薬類が岩石または石炭中に混入した恐れのあるときは、鉱車に標識をつけ、作業関係者、係員および管理者に報告する。	不発火薬類が起砕ズリに混入した恐れのあるときは、適当な表示をし、直ちに保安統括者または保安管理者に報告する。
156	32	不発と異なり爆発しているのを、残留薬包につるはしを打ち込んだり、せん孔ビットを当てて災害を起こす例が多い。発破後点検では発見しにくく、発破後点検では各孔尻を入念に調べる必要がある。	不発と異なり爆発しているのを、発破後点検では発見しにくい。残留薬包にバケツトツースやせん孔ビットが当たり災害となる可能性がある。
157	4	起採	起砕
158	10	ダイナマイト	爆薬
158	14	・爆薬を包装用のビニール袋から直接孔中に流し込んだり、プラスチックなどの絶縁性の高い容器ですくって流し込んだりせず、一度ふまえに置いた金属容器に移してから流し込む。	(削除する)
158	16	また、尻管、中管は絶対にさけること。	また親ダイに電気雷管を使用する場合は逆起爆、中間起爆は避けること。
158	24	・尻管、中管方式による親ダイの装入は、危険が大きいのので避ける。	・逆起爆、中間起爆による電気雷管を使用した親ダイの装入は、危険が大きいのので避ける。

頁	行	修正前	修正後
158	29	・脚線、補助線端末の裸線部、各結線部は、絶縁テープを巻いて絶縁する。	・脚線、補助線端末の裸線部、各結線部は、必要に応じて絶縁テープを巻いて絶縁する。
159	表2.23内	a)吹き戻りANFOの帯電微粒子が空中に浮遊して、人体、脚線、補助線などの帯電を起こさないよう処置する。	(削除する)
159	6	1)不発および残留による災害(最も発生率が高い)	1)不発および残留による災害
163	12	鉱山保安法施工規則	鉱山保安法施行規則
164	28	ダンプカー	ダンプトラック
165	33	(①の手前に追記) 集積場の建設基準は、過去に発出した通達で、現在は技術基準第33条に示され、その詳細は技術指針第25章に明記されている。	
168	27	土庄などによって	土圧などによって
169	14	地盤内応力時刻歴の算定二次元FEM	地盤内応力時刻歴の算定 二次元FEM (要改行)
188	1	回転速度が大きい	①回転速度が大きい
194	図3.15	スラスト玉軸受の例	ラジアル玉軸受の例
211	20	図3.30Bに示す羽根車と	図3.30に示す羽根車と
213	16	ポンプの揚程は図3.45	ポンプの揚程は図3.34
223	16	②扇風気圧は	②扇風機圧は
224	29	内筒の間に	内筒の間に
225	17	きわめて少ないので、	きわめて狭いので、
226	13	連続的に圧縮されるので	④連続的に圧縮されるので
226	14	④	⑤
226	15	⑤	⑥
226	16	⑥	⑦
231	11	①往復数式	①往復動式
232	図3.52	(No.39) 廻り止ネジ	廻り止ねじ
242	16	(図3.56参照)	(図3.57a参照)
242	図3.56	図3.56	図3.57a
242	22	(図3.57参照)	(図3.57b参照)
243	図3.57	図3.57	図3.57b
245	10	供給あるは粗ふるい	供給あるいは粗ふるい
247	2	粉紛体	粉粒体
248	図3.67	(断面図) ネジ羽根径	ねじ羽根径
248	図3.67	②フィーダネジ羽根	②フィーダねじ羽根
249	17	天然せんい、合成せんい	天然繊維、合成繊維
254	23	1) ネジ式緊張装置	1) ねじ式緊張装置

頁	行	修正前	修正後
255	2	ネジ式緊張装置を使用する。ネジ式では、	ねじ式緊張装置を使用する。ねじ式では、
256	3	スクレーパーを使用する。	スクレーパを使用する。
272	9	金属板を2枚の絶縁物を介して相対させ、	2枚の金属板を絶縁物を介して相対させ、
273	15	ネジの回転する	ねじの回転する
273	16	右ネジの法則	右ねじの法則
273	図4.3	アンペアの右ネジの法則	アンペアの右ねじの法則
290	13	最終速度は近づいたとき、	最終速度に近づいたとき、
290	16	一次的にリアクトル	一次側にリアクトル
291	14	1)二次回路の抵抗を加減する法	2)二次回路の抵抗を加減する方法
314	7	地格による	地絡による
315	表4.5	靱帯の通過電流による反応	人体の通過電流による反応
315	19	人体が電気導体加電部に・・・	(インデントを上げる) (13行目と同じ位置にする)
316	27	d) 流速を下げる。	d) 摩擦を起こさないよう、流速を下げる。
316	30~32	f) とg) を入れ替える (雷管を最後にする)	
325	32	二酸化炭素と同じく	一酸化炭素と同じく
417	図5.78	振動波の距離減衰	弾性波の距離減衰